

# 常磐每日新聞

定価 一部金五銭 一ヶ月金五拾銭 郵費五銭  
電話 五五五 五五五 五五五  
発行所 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日新聞社

## 念佛とは何ぞや

真繼 雲山

南無阿彌陀佛といふたら極樂へゆけるといふので、念佛を稱へる人が多い。成程それには相違はないので、何ゆゑ救はれるかの詮議は救はれるといふ目的のためには無用である、恰もそれは機關車の構造を知らずとも、信じて乗れば目的地の驛に到着するやうなものである。しかし初めて汽車を見る野蠻人は、餘ほど早く得心させねば危険を感じて迂闊には乗らないであらう。文明人が平気で乗るのは無事に到着する事實を信じてゐるからである。

念佛も亦たそのやうに、爺さん婆さんは無理由に稱へるも、理智に長けた現代人は、念佛すれば何ゆゑ救はれるかの理由を明白はせぬ以上、無條件に稱へぬであらう。念佛して救はれることは理窟ではなきも、理窟に反したものであるから現代人の稱へる筈はない。念佛には凡そ三段ある。

第一段に、昔から念佛は必ずしも浄土教の專賣特許といふではなく、眞言でも天台でも禪宗でも稱へて来た尤も聖道の諸教は必ずしも西方に浄土を認める指方立相とは限らず、己心に彌陀

あり、唯心に浄土ありとして、我が心中に佛性を開顯せんことを期する。その念佛を稱ふるは佛道完成へのそれ、一つの姿である。

第二段に、聖者法然を元祖とする浄土宗の念佛とは佛を念ふ、謂はゆる憶持不忘の意で、専ら浄土を西方

### ノート

大食して寝が足りないと疲れ易い、大食漢がねむがるのもかうした譯、即ち二重の不經だ。

に眺め、ひとへに念佛の功力によつて往生極樂を期する、それは別段の理窟はない。たゞ、南無阿彌陀佛と申して疑ひなく往生するぞと思ひとりて申す外に別の仔細は候はぬので、「この外

### 二明日の献立

- 【朝】みそ汁：鶯菜
- 【晝】精進揚げ：くわあ
- 人參 三つ葉 合せ
- 醬油
- 【晚】煎り卵の花：鮮魚
- ねぎ 煎り卵の花
- せん生姜

に奥深きことを存せば二尊のあはれみに外れ本願に洩れ候」といふ元祖の一枚起請文が一切を解決してゐる。この場合の念佛は自力で稱へて他力の救ひを求めんと

する助けの網であり、極樂の橋である。第三段に、宗祖親鸞の開顯せられた絶対他力の念佛とは、當人が稱へるのでなく如来のお計らひとして佛様が稱へさせて下さる、佛様からの下され物、謂はゆる廻向である。碎いて言へば阿彌陀様が凡夫の心中にお宿り下されて、凡夫の口を藉りて稱へて下さる如来のお聲、如来の勸命だといふのである。

蓋しわれ一切群生は眞如の活現として(本願力に催されて)法性眞如の境界(本願海中)に生きてゐるのでその體と界とは共に眞如以外のものではなく、その本質は永生であり、無量壽無量光であるゆゑ、六字の名號とは「もと」救はれてゐるといふ原理の表現と見ることが得べく、これを信じて稱ふるのは、われわれの妄心のもと、純眞なる眞如海中にありたることを發見したる歡喜の禮讚でもある。

この故に六字の念佛の稱へられた時が佛様が稱へさせて下さられた時で、それが救済の成立と普通には考へられるも、實には既に救済の成立してゐる事實の發見といふことになり、爾餘の相續は報謝歡喜の念佛

に外ならぬ。されば浄土宗では念佛の功力により、行者の臨終には紫雲たな引きて彌陀三尊二十五菩薩の御來迎ありとするも、眞宗にありては念佛を現證として信の一念により、疾くの昔に現身のまゝ極樂に遊んでゐることであるから、臨終に今更ら水臭い御來迎といふものはない、これを不退失往生とも平生業成ともいふのである。

斯界の權威!!!

## 大塚の靴

学生靴 自生編上靴 六圓  
女學生半靴 五圓  
紳士靴 弊店自慢の流行新形  
平田町 大塚製靴部 電話七七番

## 咽喉科専門

平町田町七〇番地

### 山内醫院

醫學士 山内亨吉 電話六九一

應入院 應需院

旭硝子株式會社製品

## 板ガラス

赤菱印

硝子 壺 菓子 食器

其他各種

### 松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)  
仙臺市榮町(電話五九七番)

イヤ！君！  
いゝ冬服を求めたね  
断然三三年型だよ  
いやコレカネ！  
例の……「ソレ」

## 正札堂

六三四電通場車停目丁四平



## 共済病院案内

院長 醫學博士 石山謙 自宅電話一二四番

内科	醫學博士 石山謙
小兒科	醫學博士 佐久間重
外科	醫學博士 桂馬重
喉科	醫學士 有馬雄二
皮膚科	醫學士 五十嵐雄
産婦人科	醫學士 佐久間
X光線科	醫學博士 石山謙
衛生試驗所	技師 石山謙
藥局	技師 石山謙

診療時刻 午前八時より午後五時迄  
但急患は此の限りに非ず

平町 磐城共済會 電話六四一

## だしの素景品付 賣出し期迫る

經濟で美味なだしの素を未だ御使用なき御料理店飲食店様及御家庭へ是非おすゝめします。御客様も御家族様もきつと御満足いたします

販賣員募集  
新川町新藤屋隣

### 京一醬油直賣所

## 江戸前料理 合巻

主人自慢の鳥料理

### 水タキ

會席膳一人前…八十錢ヨリ…

出前迅早!

### 錦水

電話四五四番

# 非常時

## 日本を背負ふ

### 本年の平町壯丁

平町に於ける八年度壯丁は此程役場の調査終了したが夫れに依ると本籍者が百六十九名、寄留者が四十八名在學生が六名、計二百廿三名であるが氏名は左の如くである

- 小野正二 佐藤誠久 田久清 吉田小一 齊藤正二 酒井政十 江尻榮二 馬目俊次 小野武雄 岩原宗司 椎名秀雄 高野芳文 高野静次 佐々木左三 松田一 箱崎安男 松本幸吉 須藤正二 須藤正一 三橋正男 大和田久明 大和田一郎 水野市郎 山田文平 松本繁 有吉守正 片野盛雄 鈴木美雄 古田部光三 鈴木武夫 金子松男 大石明 大石寛一郎 大崎正二 佐藤勇治 小川正二 飯田俊輔 武花力 水口武司 綿引富郎 武田金二 篠塚榮一 關原司 酒井八郎 北林清 伊關清治 叶多堅助 石橋嘉門 吉成五郎 山本金三 永木茂 高根澤亥 一 鈴木武雄 志賀榮一 小野弘 鈴木光治 鈴木茂雄 草野富秀 野澤光男 佐々木二郎 草野正 酒井三男 春日朝三
- 田村正二 馬目國三郎 四倉武久 林龍郎 橋本美喜夫 草野丈夫 吉田泰造 薄葉存一 吉田金平 池上富司 殿本正男 根本四郎 小菅光美 中村善吉 小菅昌平 緑川清一 阿部正四 助川金一 高野修一 野木武一 久田茂正 青木實 小林義雄 國府田良平 石森忠夫 酒井政直 高野吉男 佐藤一男 小林正二 澤上武雄 浦井直一 山内勝一 鈴木繁 原野一 星恒雄 古川壽一 鈴木新平 佐々木正二 本間七五三吉 佐藤嘉雄 仲井二郎 小川竹夫 關根文夫 杉本武夫 三瓶正治 山森正敏 秋山武 永山敏政 折笠彌七 叶正良 鳥居彦衛 鈴木新二 新井彦一郎 鈴木芳彦 鈴木政明 吉田力雄 萩原節夫 有驛公男 佐川康平 中村一夫 西潟知衛 堤康 須藤高明 岡時保 阿部徳三郎 坂下幸藏 加藤金之丞 加茂下濱良 永山喜光 岡部康男 配井貢 新井照男 小林五郎 志賀留男 金成雅雄 鈴木初雄 澄川一助 清原永好 松本

- 勝義 鈴木武 松本六三 郎 野口一 鈴木一郎 吉田儀男 森合徳 北川光英 土屋正二 加藤武久 丹野勝榮 菅野三郎 吉田孟 佐藤三郎 江口軍二 色川清 須田金五郎 大河内宴男 木田伯雄 富澤巖 生田目正一 國井榮三郎 林正春 大河原完 藤澤義夫 大谷龜治 平井勝雄 森豊勝 瀧福 松本繁兒 横山久 佐藤弘 瀬戸信之 黒澤八三郎 柴田重太郎 中島尚正 長島勇雄 大内辨見 安積巳好 大石浩 黒崎正夫 渡邊巳之雄
- 大形新一 宮原正男 鈴木實 佐藤一 黒澤八三郎 磯崎正雄 鈴木泰二 奥山重吉 白田孝 古澤勝藏 松原政一 大曲直衛 星武雄 藤田武雄 千代賢守 川島令司 塚越武行 磯貝四郎 三浦幸雄 草野一郎 池田純若生芳雄 星平 武田常吉 鈴木文重 小松光平 大竹正吉 藤田省三 鈴木道造 赤石澤忠信 大泉儀一 菊地忠知 黒澤茂三 野田剛 平澤勝男 松村享 谷口孝雄 桐谷哲夫 上坂正勝

### 教育會から

#### 表彰される成績優良児童

平第二第三校既に決定

石城教育會にては来る三月尋常科及び高等科を卒業する郡下各小學校の成績優良児童を各學級一名宛表彰する爲めに目下調査中であるが平町第二、第三小學校に於ける受賞児童は左の如く決定第一は目下調査中である

- △第二 熊トリ子 阿部トツ子 松本節恵 諸橋クニ和 田登美子
- △第三 田中榮太郎 橋ノミ

### 田植から收穫迄の成績を徴して審査

#### 泉村の共進會受賞者

石城郡泉村農會では昨年田植より收穫迄の成績を徴して審査し、成績を徴する稲作共進會を催したが郡下で最初の試みで相當注目をひき昨十四日農會青山枝手が審査長とな

り嚴選の結果入賞者は左の如く決定した  
(二等)下遠野武(二等)下遠野豊治 齊藤忠雄(三)

### 内務省の事務官が

#### 郡下匡救事業視察

内務省事務官近藤欣一氏は本縣匡救事業の現場視察の爲め本日午後六時湯本驛着列車にて來郡明十六日は郡下各町村の現場を視察の上双葉相馬の兩郡を経て中通り方面に赴く豫定であると

### 校長會議

#### 水野視學臨席

石城郡下小學校校長會は来る三月十一日午前十一時より平第一小學校講堂に於て開かれるが當日は水野縣視學が臨席すると

### 湯本町で

#### 水道竣工式

石城郡湯本町では来る廿五日町會を開き本年度豫算並に水道竣工祝賀式其他を附議すると

### 魚肥煮干

#### 江名で授與式

既報縣水産會主催の魚肥煮干臨會品評會の褒賞授與式は昨十四日午後一時より江名漁業組合樓上に於て舉行されたが入賞者は左の如くである

- (一等)小名濱青木留吉
- (二等)四倉長谷川卯之吉(一等)

(等)高木又右衛門 志賀鶴次郎 志賀一 鈴木武雄

### 平町人事

#### 回出生

△六丁目二〇 當時東京市江戶川區小岩町四ノ一七五九丹野五郎氏長男進一郎

#### 回死

△鎌田町三八 小野崎カノ(一一)

### 三人制の卓球

#### 申込二十一組

第二回關東北三人制チーム卓球大會は来る十九日午前九時より平卓球協會主催大塚運動具店後援の下に平第三小學校に於て開催されるが昨日迄の申込は昨年の優勝チームたる仙臺卓球協會を始め相馬、福島、日立、水戸、平協會、稅務署、營林署、平商、警青等其他二十一チームにて一切迄には三十チーム以上に達するであらうと豫想され人氣を呼んで居る

### 紺屋衛生區長

#### 平町

紺屋町衛生組合では此程區長及び區長代理の改選を行つた結果組合長は瑞幸吉氏代理は小野晃氏當選した

### 仲間區長代理

#### 平町

仲間町の區長代理は後てより欲員の儘であつたが此程田部矢四郎氏に決定した

美味! 芳醇!

# 宗正らひた

看護婦急派の求めに應じます

平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

山崎合名會社 電話一〇番

# 花時の公園に

## 人呼びの催し

### 町長が種々思案中に 動物園開設の申込み

昨年の春は昭和博覧會の開催に依つて花の平町に非常な賑ひを添えたが本年も他地方からの観櫻客吸引策として何か一思案せぬばならぬと繁忙中の青沼町長が思考をめぐらして居た折柄宮城縣石巻町旭町不流金三郎氏から花の季節松ヶ岡公園内に子供の國や動物園を

開設したいとの申込が本日平町役場に到着したが興業本位では困るがさうでない限りは町でも大いに應援して是れをやらして見るとの相當乗氣を見せ偵察旁々吏員が近く同地に出張する事になるかも知れぬと

### 鎌田遊廓から

## 地代値下を

### けふ役場に交渉

### 坪八錢を半額に

平町鎌田遊廓の妓樓六軒の敷地千五百六十六坪は町有敷地なので坪八錢の割を以つて千四百五十六圓十二錢の地代を徴する事になつて居るが最近カフェーや飲食店の發展が猛烈で遊廓の客は殆んど奪はれ六軒の遊廓は

### 枕元の餅に

## 命を取られた老人

石城郡勿來町大字大高字士(取居住甲高寅藏(六八)は數年

前より中風病を患ひ自宅で治療中たる十三日午前九時頃妻のナミが枕元に餅を置いて箸を取りに行つた後で

## けふ烈風中

## 宮の山火事

### 民家四戸を焼いて

石城郡内郷村大字宮字峯根笠井喜助方より本日正午頃發火折柄の強風に煽られ忽ち同家を全焼し更に伊關吉太郎菅野直記横山清治の各戸を一嘗めにし猛火は附

## 五ヶ年間無欠席

### 平商卒業式に表彰

平商業學校本年度卒業式は來る三月十二日舉行されるが當日五ヶ年間無欠席の爲め表彰される生徒は左の四名である

外村武夫 永山忠男 栗原好雄 緑川莊吉

### 學藝會出演

各學年種別 第一小學校に於ける學藝會及び成績品展覽會は來る三月十日



明日の天気 今晩も明日も北西の風天氣良し

今晚の部 後六、〇〇 子供の時間 お話「童話の作り方味ひ方」西條八十 後七、三〇 講演「歌人としての西行」福島高等學

校教授北島霞江 後八、〇〇 歌澤特別演奏 「相生歌澤實佐久良外 後八、三〇 ラヂオ風景 「スキー五徳」出演友田恭助 後九、四〇 全國ニュース

氣象通報 番組報告 明日の部 前九、一〇 料理献立「豆腐機邊揚げ」宇多繁野 前一〇、三〇 家庭講座 「冬から春にかけて起り易い小兒の中耳炎」 田村弘隆 後〇、〇五 尺八三曲 坂本筑堂外 後二、〇〇 家庭大學講座 「哲學」東大講師大島正徳

後五、三五 受験講座「代敷」松村定次郎 後六、〇〇 「子供の時間」 童話 能仁幼稚園々兒 後七、三〇 趣味講演「金山華山と鹿と猿」内海正治郎 後八、〇〇 三曲「六段千鳥の曲」佐々木喜豊外 後八、三〇 河東節「邯鄲」 山彦不二子外 後九、三一 滿洲より

## 別れた妻に未練

### 家出後の困窮から捜査願

石城郡内郷村字町田居住江尻三次(三)は先頃夫婦喧嘩の末に別れた妻のキミ(三八)が思ひ切れず去る十三日夜病床の父親と妹を残して無断家出してつたので生活に窮した妹スマから本日平署に捜査方を願出た

## 大浦村に

## 火事

### 全焼九棟

石城郡大浦村大字大森吉田八之助方物置から本日午後一時半頃發火し見る々内同家を全焼して隣家の坂本榮治郎方も烏有に歸せしめ片寄三郎方を半焼午後二時半頃火したが全焼九棟子供の弄火らしいと

## イタチの

## 罰金廿圓

石城郡川前村大字下桶賣字

## 平裁判たより

- 石城郡飯野村大字上荒川字草木八番地志賀傳内(三六) 平町七丁目十五番地志賀欽作(四)と共謀詐欺事件は本日午前十時より平區裁判所に於て開口判事係り小林検事及び吉田書記立會の下に開廷され事實取調の上檢事より傳内は懲役八ヶ月欽作は懲役六ヶ月各求刑されたが言渡しは來る十七日午前九時である
- 茨城縣久慈郡金鄉村生れ目下住居不定菅野根吉雄(三三)が昨年三月頃自動車修繕業と偽り二百餘圓を詐取した外内郷村綴千葉政藏を言葉巧みに説き伏せ娘タツ
- 回人を求める方 雑夫 三十才二名 委細面談(小名濱町某)
- 農夫 二十七才迄 尋卒 給料面談(江名町某)
- 兒守 十四才 仕着外年十圓(平町某)
- 豆腐賣子 四十才 尋卒 回職を求める方 賣上の二割給(平町某)
- 店員 二十五才 商業二修 給料面談(平町某)
- 雑夫 三十六才 尋卒 給料面談(平町某)
- 給仕 十九才 高卒 給料面談(平町某)
- 大工 二十六才 尋卒 給料面談(平町某)
- 雑夫 三十四才 無學 給料面談(平町某)



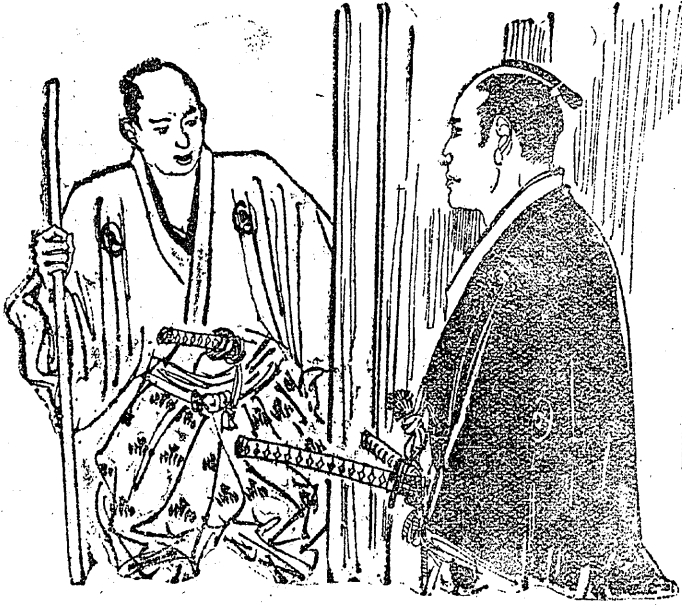
# 藤作の命乞ひ

【禁轉載上演及映畫】  
悟道軒圓玉演  
近藤紫雲畫

第二百六十七席 千葉一周作

常陸潮來は水戸家の領地、こゝには役所もありません、藤作の自訴によつて役所は加茂洲に出張したし藤作のために打殺された萬平の死體を調べこれはその遺族に引渡して役所に戻す、すると津の宮の者が藤作の親孝行なる事を申し立てお慈悲の御沙汰を願ふとの嘆願書を出した時に潮來の役人が

これは藤作には罪はあるまいと思ふ何んとならば萬平が藤作の父四郎兵衛に喧嘩を賣り刺へこれを打殺したそれを聞いて藤作が父の怨みを晴らさんと茲に萬平を打殺した、さすれば藤作は親の敵をうちし天晴れ孝子賞すとも罰する事はあるまいと斯う云ひました、これを聞いて他の者もそのお説は御尤もであるが水戸の領民が津の宮の船頭のために打殺されたは甚だ不面目よつてこれを所拂ひに處したがよからう又親の敵はうつたにせよ天下の御法に背きし事であるからこれを賞美いたす事はあるまいと申す者もある、何にしても藤作の命にさばるやうな事はない、これを津の宮の者



を死罰に行ふてよろしからうと云ふ者もある、役人はこれに賛成して愈々藤作を死刑に處する事に決定したこの事を聞いて驚いたは津の宮の者

○「飛んだ事になつたぞ四郎兵衛どんが蘇生した爲めに藤作がお仕置を受ける事になつた何とかして助けてえものだ」  
△「一體あの四郎兵衛親父がよくねえ死んだり生きたりしてあれが死んでしまへば藤作は助かるだらう、それを爺め生きかへつて悴に難儀をかけるとはあんな子不孝な親父は世間に二人とはなからう、柔順しく死んでゐるが、馬鹿爺だ」  
など云ふものがあるし、かしこの儘には捨て置けぬと又々嘆願書を出した、四郎兵衛は蘇生致しましたが不具になりました、さすればこの後船頭をして世を渡して何うか藤作を助けてやつて下さいましと土地の者打揃ふて頼みました、周作先生これを聞いて

周「潮來は水戸領と聞き及ぶ何と申す者が役所に居るか、イヤ役所の長官」  
△「左様でございますが御役人は三人程居りますが、その中でまづ隊長とも申すは佐藤五左衛門様でございます」  
周「ア佐藤五左衛門、佐藤ならば拙者は兩三度會つた事もある、面會いたして藤作の命の保つ事のなるやう申談するであらう」  
○「それは有難い事でございます、これと申すも藤作の親父の四郎兵衛が蘇生いたしました、めでたございます、あれが死にましたならば藤作は親の敵を討つた事になつて戻つたてでございます、何しろ爺が毫碌して居りまして悴の難儀のかゝる事に氣がつかせません馬鹿な親父でございます」  
周「イヤそんな事はな、生いたしたは目出度い事だ」  
○「親父には目出度い事でございますが悴には情ねえ事でございます」  
周「まづ、拙者にまかして置け、潮來の役所に居る佐藤は道理の判る人物さすれば藤作を助ける事も出来るであらう」  
○「よろしく御願ひ申します」  
そこで周作先生をば船を雇ひこれに打乗り潮來に参り役所に出て來ました

○「何處に御通りなさると門番が咎めた」  
周「佐藤五左衛門殿に御面會いたしたい、拙者は江戸神田於玉ヶ池に住する千葉周作と申す者でございます」  
○「コレは千葉先生でございますかまづこれへ御通り下さい」  
と控所へと案内した

## 三井タクシ

目丁二町平 番五八六話電

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める川崎巡回文庫 電六三〇番 (申込次第規則書進呈)

今度左の様な献立に寄りましてせいか、お氣に召します様に勉強致します。何卒御尊來御試食の程伏して御待ち申上げます。

ひな鳥  
水たき 御一人前金五十錢 二人前ヨリ  
新鮮 鯛茶漬 御一人前金五十錢  
料理四品酒一本付 金壹圓  
◇料理は毎日献立を替へて調理致します  
◇御宴會出前は如何様にも御相談に應じます

割烹旅館 住吉屋本店 電話一五九番

内科・小兒科・花柳病科

藤沼醫院

入院需應 平町紺屋町 電話五〇七番

専門 産科 婦人科 花柳病科 入院隨意

井坂醫院 平町田町 電話五五九番

太平生命外務社員募集 身体強健眞面目な奮闘家を求む 入社希望者は左記に申出でられたし

太平生命保險株式會社 平町二丁目地球堂内

磐城方部事務所